

平成 29 年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 空知地区
- 2 事例報告学校名 : 滝川市立滝川第二小学校
- 3 報告者 : 校長 木村 尚之
- 4 キーワード : 学力向上、異校種連携



1 はじめに

本校は開校 127 年を迎える歴史と伝統のある学校です。今年度、学級数 15 学級（特別支援学級 3 含む）、児童数 392 名です。児童は、明るく活動的である反面、学習や基本的な生活習慣が十分に定着していない面がみられます。

本年度の重点目標であります「主体的に自分を成長させ、集団の一員として自己実現を図る子どもの育成」を目指して、教職員と保護者・地域が連携し教育活動を進めています。

2 学力向上の取組

(1) 組織的な取組を目指して～学びパワーアップチーム～

主幹教諭を中心に複数の分掌部からのメンバーで構成された組織です。授業の基本形や授業を進める上での留意点、ノート指導の充実、学習規律の徹底、学習用具、全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果分析、落ち着いた学習環境・教室環境の整備等に関する具体的な手だてを示し、組織的に学力向上を推進しています。

また、本チームでは、本校の取組を地域にも知っていただこうと広報活動にも取り組んでいます。今年度、学校ではどのような指導が行われているのかを A3 一枚にまとめた「一目でわかる！第二小」を作成、保護者に全戸配布し、地域にも町内会回覧を通して広く発信しているところです。

(2) カレーハウスの取組 ～よりきめ細かな習熟度別学習で確かな学力を！～

本校は、指導方法工夫改善加配を受けており、3 年生以上の算数で、TT と習熟度別学習を行っていますが、更なる効果をねらって、特に課題のある教科や単元で、該当学年部に主幹教諭等が加わって指導態勢を組み、よりきめ細かな習熟度別に分けたグループごとの学習を進めています。

成果としましては、①子どものレベルに応じた内容で学習を進めることができる、②学習ペースが同じなので、効率よく学習を進めることが出来る、③少人数指導なので、よりきめ細かな指導を可能にする、などがあげられます。

昨年度は 6 年生で、今年度は 3 年生と 6 年生で行っています。中学校での教科担任制を見据え、小学校で担任以外の複数の先生の授業を受ける経験をもたせることも大切だと思います。

(3) 放課後・長期休業を活用した学習サポートの実施

非常勤講師や市の学びサポーター、退職教員を活用した学習会を実施しています。放課後の学習会は、主に国語・算数の基礎・基本の定着を図るための個別指導を中心に、低学年と高学年に分けて、週 1 回行っています。また、今年の夏休み学習会は、3 日間開催し、延べ 180 名の児童が参加し、個々の子どものつまづいているところをサポートしていました。

(4) 家庭学習の充実に向けた取組

① 家庭学習キラキラノート

手本となる家庭学習ノート各学級 2 点を中央廊下に定期的に入れ替え、多くの児童のノートが掲示されるよう配慮しながら、波及効果をねらった取組となっています。掲示された児童は大きな励みになり、それを見た児童は家庭学習に取り組む上での参考



になっているようですし、自分のノートも掲示されるよう頑張る子どももいます。また、保護者の関心もあり、キラキラノートを見に来校される方が多く見られます。

② 中学校区すべての小・中学校で統一した学びの環境づくりの取組

学校でも家庭学習の手引きを発行していますが、さらに中学校区の各校担当者による小中連携推進組織と各校PTAにより、中学校区家庭学習の手引き「まなびのさかみち」を作成しています。主な掲載内容としては、⑦小・中9年間の家庭学習のポイントと保護者の関わり、⑧基礎学力の定着といじめの未然防止等を図る学校の取組、⑨家庭学習の習慣化を図る保護者の環境づくり、⑩ネットトラブルから子どもを守る家庭のルールづくりの四つです。中学校区の小・中学校が足並みをそろえ、保護者に対して、望ましい学びの環境づくりに向けた意識啓発を図っています。



3 異校種連携の推進

(1) 中学校教諭による出前授業

「中学校の授業ってどんな感じなんだろう?」「英語の勉強って?」「中学校の先生方はどんな感じ?」等々、子どもたちのそうした疑問や不安を解消し、中学校入学前にその雰囲気味わってもらおうと、昨年度、校区中学校の教諭とALTに来ていただいて、理科と英語の出前授業を行いました。6年生は、緊張しながらも、普段よりも集中して意欲的に授業に臨み、中学校生活への期待に胸を膨らませていたようでした。



(2) 幼稚園・保育所との交流会

この交流会は、本校に入学する・しないにかかわらず、小学校入学前の幼稚園・保育所の幼児を対象に実施しています。小学校での授業や小学生との交流を体験させることにより、入学に対する希望や期待感をもたせるとともに、一年生には年下の子どものお世話を通して上級生としての自覚をもたせ、充実感を味わわせることを目的に実施しています。一年生は、歓迎の言葉や歌の披露、授業体験補助、学校探検の案内、自分が担当する幼児のお世話などを一生懸命行い、役割を立派に果たすことができていました。

また、幼稚園・保育所・小学校の教諭等間の情報交流の場にもなっております。

4 おわりに

子どもたちが、生涯にわたって変化の激しい社会を自立して生き抜くために必要な力を身に付けさせることが、学校に求められています。そのためには、学校は組織的に教育内容の改善・充実にも努めるとともに、地域の教育力を積極的に活かし、付加価値をつけた教育活動を展開することが大切になります。

子どもが変容する姿を家庭や地域と共有しながら、地域に愛され、応援される学校づくりに取り組んでいきたいと考えます。